

V. 運営

22. 定款委員会

委員長 武 富 紹 信

本年度は定款および同施行細則の変更などについての諮問事項がなかった。

23. 財務委員会

委員長 佐 田 尚 宏

1. 令和2年度予算の修正の件

令和2年度はコロナ禍のために、第120回定期学術集会が完全Web開催となったり、各種委員会がWeb会議システムによる開催となったりして、事業内容が当初の予定と大幅に異なることとなったので、EY新日本有限責任監査法人の助言を受けて、事業計画書と収支予算の修正を行い、収入が10億5,252万5,294円、支出が8億9,200万9,727円の見込みとなり、収支差額は1億6,051万5,567円の黒字を見込むこととなった（当初は21万3,222円の赤字の見込み）。

2. 令和2年度決算の件

令和2年度財務諸表を作成し、独立監査人であるEY新日本有限責任監査法人と本学会監事の監査を経て理事会に答申したところ、答申どおりに決議されたので、定時社員総会に上程する（資料別添）。

3. 令和3年度予算の件

令和3年度予算について、委員会で審議し、理事会に答申したところ、答申どおりに決議されたので、令和2年2月1日からその予算に沿って業務を執行している（資料別添）。

また、コロナ禍のために令和3年度も事業活動などが流動的なので、令和2年度同様に、必要に応じて予算修正を行う予定である。

24. 情報・広報委員会

委員長 田 尻 達 郎

1. 会員向けオンラインサービスの件

現在、会員向けオンラインサービスの登録者数は全会員40,460名のうち34,822名である。

会員情報検索・修正システム、外科専門医システム、学術集会参加履歴登録システム、各種申請システムなどを運用・管理している。

本年度も引き続き新専門医制度対応のためシステムの構築を行い、次年度以降も随時対応する予定である。

2. メールマガジンの件

必要な事項のみを適宜配信するメールニュースの形式で、全会員を対象としたものを92件、配信内容による対象者を限定したものを20件配信した。

3. ホームページのリニューアルについて

令和3年度中のホームページのリニューアルを目指して、まずはデザインのカラーバリエーションを決定し、英語ページの充実化を図ることを改めて確認した。

25. NCD 連絡委員会

委員長 湊 谷 謙 司

- 1) NCD から「NCD 自施設データ利用申請」における外科領域のデータの利用申請について照会を受けた場合は、適宜「可否」を判断して、回答を行っている。
- 2) 令和2年1月1日付でNCD術式の改定が行われたので、従来どおり専門医制度委員会に「外科専門医修練カリキュラム」などとの紐付け作業を依頼した。

1) 一般社団法人 National Clinical Database (NCD)

代表理事 瀬 戸 泰 之

National Clinical Database (以下NCD) は、2010年に設立され、2011年1月の症例から登録を開始し、事業を開始して10年が経過した。2015年度より、登録を行っている施設会員から会費の支払いをお願いしている。なお、2018年度から未納期間が合計2年間(連続・不連続問わず)の施設は、「NCD施設会員資格」を喪失し、外科専門医制度において基幹施設又は連携施設になれないほか、個人医師による専門医申請の際に当該施設で実施された全症例(2011年～現在まで)のデータが利用することができなくなる。

外科学会関連で登録された症例数は、2021年2月1日時点で、2011年が1,172,264件、2012年が1,278,899件、2013年が1,567,083件、2014年が1,626,844件、2015年が1,718,293件、2016年が1,785,133件、2017年が1,828,646件、2018年が1,830,474件、2019年が1,859,787件、累計14,667,423件である。また、過去に完了承認済みを1件以上登録した施設診療科数は、4,890施設・8,604診療科であり、有効ユーザー数は45,434人である。なお、2020年分のデータ登録を2021年4月7日で締め切る予定である。

2020年度事業報告書、2021年事業計画書及び進行中の公的研究費案件一覧、データ利用研究の一覧(各領域ごと)については、次頁以降を参照のこと。

一般社団法人 National Clinical Database
2020 年度事業報告書

National Clinical Database（以下 **NCD**）は臨床現場の医療情報を体系的に把握し、医療の質の向上に資する分析を行う。その結果を以て一般市民に最善の医療を提供し、適正な医療水準を維持することを目的とする。2020 年度は、以下の事業を実施した。

（1）医療情報を集積したデータベースの維持管理及び提供について

- データ入力仕様の要望を加盟学会より受け付け、改訂を行い、正確なデータ収集を図った。ソフトウェアの品質向上に努め、システム保守及び管理業務のチームを安定的に形成した。
- 症例登録において、追跡調査の補助機能を継続的に開発し、フォローアップ情報の入力向上と状況把握を支援した。
- **JCVSD-A**、**JCVSD-C**、消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科、**J-PCI** 等の領域で、症例登録データの集計・分析結果を施設診療科が確認できるフィードバック関連業務を推進した。
- **DPC**・レセプト情報の集積システムの管理およびデータ利活用の可能性について研究した。

（2）データベースを活用した医療水準の評価及び臨床研究の支援について

- 各学術団体によるデータ利用研究や学術調査、各学会のアンニュアルレポート作成を支援した。
- 各領域での **Site-Visit** や **Web-Audit** において、データ検証等を支援した。
- 自施設データダウンロード機能を継続的に提供し、医療品質の評価等に寄与した。
- 院内情報システムの中で **NCD** 症例アップロード機能との連動を図った。

（3）データベースの運用による関連団体との業務連携について

- 専門医制度との連携において、各種申請システム等の開発及び維持管理を継続的に行った。
- 産学官連携において、医療機器等に関する製造販売後データベース調査を支援した。
- 各領域の学術総会において、**NCD** 関連のプログラム等での業務連携を行った。
- **NCD10** 周年事業を通じて、事業の経過や研究開発の成果等について周知した。

（4）法人の目的を達成するために必要な関連事業ならびに業務について

- 施設会費プランの検討、施設会員登録に関する周知活動等を行った。
- セキュリティ保持、知的財産の管理、法・倫理的課題の解決を図った。
- データセンターとしての運用条件の見直しと試験等を行った。

以上

一般社団法人 National Clinical Database
2021 年度事業計画書

National Clinical Database (以下 NCD) は臨床現場の医療情報を体系的に把握し、医療の質の向上に資する分析を行う。その結果を以て一般市民に最善の医療を提供し、適正な医療水準を維持することを目的とする。2021 年度は、以下の事業を実施する。

(1) 医療情報を集積したデータベースの維持管理及び提供について

- データ入力仕様の要望を加盟学会より受け付け、改訂を行い、正確なデータ収集を図る。ソフトウェアの品質向上に努め、システム保守及び管理業務の安定化を図る。
- 症例登録において、追跡調査の補助機能を継続的に開発し、フォローアップ情報の入力向上と状況把握を支援する。
- がん登録の領域拡大を図る。
- JCVSD-A、JCVSD-C、消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科、J-PCI、小児外科等の領域で、データの集計・分析結果を施設診療科が確認できるフィードバック関連業務を行う。
- DPC・レセプト情報の集積システムの管理およびデータ利活用の研究を継続する。

(2) データベースを活用した医療水準の評価及び臨床研究の支援について

- 各学術団体によるデータ利用研究や学術調査、各学会のアンニュアルレポート作成を支援する。
- データの質の検証業務に新たにリモート型を加え実施する。引き続き各領域でのデータ検証を支援する。
- 自施設データダウンロード機能を継続的に提供し、医療品質の評価等に寄与する。

(3) データベースの運用による関連団体との業務連携について

- 専門医制度との連携において、各種申請システム等の開発及び維持管理を継続的に行う。
- 専門医制度上の基本領域以外の学術団体においても、準会員として NCD を通じた研究支援やデータベース連携を図る。
- 産学官連携において、医療機器等に関する製造販売後データベース調査を支援する。
- 各領域の学術総会において、NCD 関連のプログラム等での連携を行う。
- 電子カルテメーカーとの業務連携を強化し、院内情報システムの中に NCD 症例アップロード機能を連動させる。

(4) 法人の目的を達成するために必要な関連事業ならびに業務について

- セキュリティ、個人情報の保護、知的財産の管理を行うとともに、危機管理及び事業継続のための対策を講じる。
- データセンター内のサーバ管理環境や運用方針を見直す。
- 医療政策に資するエビデンスに基づいて、行政との意見交換を行う。

以上

2021年度 進行中の公的研究費案件一覧

(1)AMED肝炎等克服実用化研究事業(肝炎等克服緊急対策研究事業)

| | 委託者 | 監修 | 内容 | 委託期間等 |
|---|------|--------|---|---|
| 3 | 東京大学 | 小池和彦先生 | 「組織学的に診断されたアルコール性でない脂肪肝炎(non-ASH steatohepatitis)のregistry研究」に関する事務業務 | ①2020/4/1～2021/3/31 ②2021/4/1以降も継続予定あり |

(2)厚生労働行政推進調査事業費(肝炎等克服政策研究事業)

| | 委託者 | 監修 | 内容 | 委託期間等 |
|---|------|--------|---------------------------------|--|
| 1 | 東京大学 | 小池和彦先生 | 肝がん・重度肝硬変の治療に係るガイドラインの作成等に資する研究 | ①事務代行:2020年5月15日～2021年3月31日 ②2021年4月以降も事務代行および運用予定あり ③システム開発予定あり |

(3)厚生労働科学研究費(がん対策推進総合研究事業)

| | 委託者 | 監修 | 内容 | 委託期間等 |
|---|-------------------------|--------|-------------------------|---------------|
| 1 | 国立国際医療研究センター 日本肝癌研究会 | 国土典宏先生 | 原発性肝癌分子標的薬治療に関するレジストリ構築 | ・事務代行及び運用予定あり |

(4)厚生労働省がん政策研究事業「希少癌診療ガイドラインの作成を通じた医療提供体制の質向上」班

| | 委託者 | 監修 | 内容 | 委託期間等 |
|---|-------|--------|---|--------|
| 1 | 名古屋大学 | 小寺泰弘先生 | 本邦における十二指腸癌に対する切除術式、リンパ節郭清範囲、周術期化学療法の実態と解剖学的部位別のリンパ節転移率に関する観察研究 | ・運用準備中 |

学会名：日本消化器外科学会

| 申請年度 | 申請団体 | 研究代表者 | 研究内容 | 投稿先・発表先 | 掲載媒体詳細・発表日 |
|------|-----------|-------|---|---|------------------------------------|
| 2013 | 日本消化器外科学会 | 後藤 満一 | Comparison of National Operative Mortality in Gastroenterological Surgery Using Web-based Prospective Data Entry Systems | Medicine (Baltimore) | Published online 2015 Dec 11. |
| 2013 | 日本消化器外科学会 | 今野 弘之 | Association between the participation of board-certified surgeons in gastroenterological surgery and operative mortality after eight gastroenterological procedures. | Surgery Today | First Online: 29 September 2016 |
| 2013 | 日本食道学会 | 北川 雄光 | Comparison of Short-Term Outcomes Between Open and Minimally Invasive Esophagectomy for Esophageal Cancer Using a Nationwide Database in Japan | Annals of Surgical Oncology | First Online: 21 February 2017 |
| 2013 | 日本肝胆膵外科学会 | 宮崎 勝 | Validation of the board certification system for expert surgeons (hepato-biliary-pancreatic field) using the data of the National Clinical Database of Japan: part 1 - Hepatectomy of more than one segment | Journal Hepatobiliary Pancreat. Sciences | First published: 17 March 2016 |
| 2013 | 日本肝胆膵外科学会 | 宮崎 勝 | Validation of the board certification system for expert surgeons (hepato-biliary-pancreatic field) using the data of the National Clinical Database of Japan: part 2 - Pancreatoduodenectomy | Journal Hepatobiliary Pancreat. Sciences | First published: 19 March 2016 |
| 2013 | 日本内視鏡外科学会 | 比企 直樹 | Higher incidence of pancreatic fistula in laparoscopic gastrectomy. Real-world evidence from a nationwide prospective cohort study. | Gastric Cancer | First Online: 08 September 2017 |
| 2013 | 日本内視鏡外科学会 | 比企 直樹 | Morbidity and mortality from a propensity score-matched, prospective cohort study of laparoscopic versus open total gastrectomy for gastric cancer: data from a nationwide web-based database | Surgical Endoscopy | First Online: 07 December 2017 |
| 2013 | 日本外科学会 | 瀬戸 恭之 | Effects of body mass index (BMI) on surgical outcomes: a nationwide survey using a Japanese web-based database | Surgery Today | First Online: 12 August 2015 |
| 2014 | 日本消化器外科学会 | 太田 賢生 | 本邦の地域の医療需要を反映した専門医研修プログラムを作成するための二次医療圏単位での医療の実態把握 | 日本消化器外科学会雑誌 | J-STAGE公開日: 2016/11/22 |
| 2014 | 日本食道学会 | 岡部 寛 | Impact of hospital volume on risk-adjusted mortality following oesophagectomy in Japan. | British Journal of Surgery | First published: 29 September 2016 |
| 2014 | 日本胃癌学会 | 吉田 和弘 | Surgical outcomes of laparoscopic distal gastrectomy compared to open distal gastrectomy: A retrospective cohort study based on a nationwide registry database in Japan | Annals of gastroenterological surgery | First published: 22 December 2017 |
| 2014 | 日本胃癌学会 | 吉田 和弘 | Introducing laparoscopic total gastrectomy for gastric cancer in general practice: a retrospective cohort study based on a nationwide registry database in Japan | Gastric Cancer | First Online: 09 February 2018 |
| 2014 | 日本肝胆膵外科学会 | 宮崎 勝 | Comparison of Laparoscopic major hepatectomy with propensity score matched open cases from the National Clinical Database in Japan | Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences | First published: 29 September 2016 |
| 2014 | 日本膵臓学会 | 下瀬川 徹 | Japan Pancreatic Cancer Registry of Japan Pancreas Society: Comparison between the conventional database and National Clinical Database (NCD) | Pancreatology | Available online 16 July 2016. |
| 2014 | 日本腹部救急医学会 | 平田 公一 | A comparison of the surgical mortality due to colorectal perforation at different hospitals with data from 10,090 cases in the Japanese National Clinical Database | Medicine | Publication Date: January 2017 |
| 2015 | 日本消化器外科学会 | 森 正樹 | Validity and significance of 30-day mortality rate as a quality indicator for gastrointestinal cancer surgeries. | Annals of Gastroenterological Surgery | First published: 16 April 2018 |
| 2016 | 日本胃癌学会 | 馬場 秀夫 | Effect of hospital and surgeon volume on postoperative outcomes after distal gastrectomy for gastric cancer based on data from 145,523 Japanese patients collected from a nationwide web-based data entry system. | Gastric Cancer | First Online: 09 October 2018 |
| 2016 | 日本消化器外科学会 | 後藤 満一 | Association of Surgeon and Hospital Volume with Postoperative Mortality after Total Gastrectomy for Gastric Cancer Data from 71,307 Japanese Patients Collected from a Nationwide Web-based Data Entry System (胃全摘) | Gastric Cancer | 2020/9/23 accepted |
| 2016 | 日本内視鏡外科学会 | 比企 直樹 | Surgical risk and benefits of laparoscopic surgery for elderly patients with gastric cancer: A multicenter prospective cohort study | Gastric Cancer | First Online: 11 December 2018 |
| 2016 | 日本消化器外科学会 | 後藤 満一 | "Real-time" risk models of postoperative morbidity and mortality for liver transplants | Annals of Gastroenterological Surgery | First published: 02 November 2018 |
| — | 日本消化器外科学会 | 金治 新悟 | Initial verification of data from a clinical database of gastroenterological surgery in Japan | Surgery Today | First Online: 07 November 2018 |
| 2017 | 日本食道学会 | 馬場 秀夫 | Can Minimally Invasive Esophagectomy Replace Open Esophagectomy for Esophageal Cancer? Latest Analysis of 24,233 Esophagectomies From the Japanese National Clinical Database | Annals of Surgery | Publication Date: January 31, 2019 |
| — | 日本消化器外科学会 | 竹内 裕也 | A risk model for esophagectomy using data of 5354 patients included in a Japanese nationwide web-based database. | Annals of Surgery | Publication Date: August 2014 |
| — | 日本消化器外科学会 | 渡邊 雅之 | Total gastrectomy risk model: data from 20,011 Japanese patients in a nationwide internet-based database. | Annals of Surgery | Publication Date: December 2014 |
| — | 日本消化器外科学会 | 栗田 悟浩 | Risk Model for Distal Gastrectomy When Treating Gastric Cancer on the Basis of Data From 33,917 Japanese Patients Collected Using a Nationwide Web-based Data Entry System. | Annals of Surgery | Publication Date: August 2015 |
| — | 日本消化器外科学会 | 小林 宏寿 | Risk model for right hemicolectomy based on 19,070 Japanese patients in the National Clinical Database. | Journal of Gastroenterology | First Online: 27 July 2013 |
| — | 日本消化器外科学会 | 松原 長秀 | Mortality after common rectal surgery in Japan: a study on low anterior resection from a newly established nationwide large-scale clinical database. | Diseases of the Colon & Rectum | Publication Date: September 2014 |
| — | 日本消化器外科学会 | 見城 明 | Risk stratification of 7,732 hepatectomy cases in 2011 from the National Clinical Database for Japan. | Journal of the American College of Surgeons | Published online November 18, 2013 |
| — | 日本消化器外科学会 | 木村 理 | A pancreaticoduodenectomy risk model derived from 8575 cases from a national single-race population (Japanese) using a web-based data entry system: the 30-day and in-hospital mortality rates for pancreaticoduodenectomy. | Annals of Surgery | Publication Date: April 2014 |

| 申請年度 | 申請団体 | 研究発表者 | 研究内容 | 投稿先: 発表先 | 掲載媒体詳細: 発表日 |
|------|-----------|------------------|---|---|------------------------------------|
| — | 日本消化器外科学会 | 中越 亨 | Surgical risk model for acute diffuse peritonitis based on a Japanese nationwide database: an initial report on the surgical and 30-day mortality. | Surgery Today | First Online: 18 September 2014 |
| — | 日本消化器外科学会 | 後藤 満一 | National Clinical Database feedback implementation for quality improvement of cancer treatment in Japan: from good to great through transparency. | Surgery Today | First Online: 24 March 2015 |
| — | 日本消化器外科学会 | 菊池 寛利 | Development and external validation of preoperative risk models for operative morbidities after total gastrectomy using a Japanese web-based nationwide registry. | Gastric Cancer | First Online: 11 March 2017 |
| — | 日本消化器外科学会 | 岡崎 主税 | Modeling preoperative risk factors for potentially lethal morbidities using a nationwide Japanese web-based database of patients undergoing distal gastrectomy for gastric cancer. | Gastric Cancer | First Online: 23 August 2016 |
| — | 日本消化器外科学会 | 吉田 卓弘 | Risk assessment of morbidities after right hemicolectomy based on the National Clinical Database in Japan | Annals of Gastroenterological Surgery | First published: 16 April 2018 |
| — | 日本消化器外科学会 | 渡邊 聡明 | Prediction model for complications after low anterior resection based on data from 33,411 Japanese patients included in the National Clinical Database. | Surgery | Published online: January 30, 2017 |
| — | 日本消化器外科学会 | 横尾 英樹 | Models predicting the risks of six life-threatening morbidities and bile leakage in 14,970 hepatectomy patients registered in the National Clinical Database of Japan. | Medicine (Baltimore) | Published online 2016 Dec 9 |
| — | 日本消化器外科学会 | 青木 修一 | Risk factors of serious postoperative complications after pancreaticoduodenectomy and risk calculators for predicting postoperative complications: a nationwide study of 17,584 patients in Japan. | Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences | First published: 14 February 2017 |
| — | 日本消化器外科学会 | 佐瀬 善一郎 | Risk Models of Operative Morbidities in 16,930 Critically Ill Surgical Patients Based on a Japanese Nationwide Database. | Medicine (Baltimore) | Publication Date: July 2015 |
| 2014 | 日本胃癌学会 | 芳賀 克夫 | Development and Validation of Grade-Based Prediction Models for Postoperative Morbidity in Gastric Cancer Resection using a Japanese Web-based Nationwide Registry | Annals of Gastroenterological Surgery | First published: 20 June 2019 |
| 2014 | 日本消化器外科学会 | 竹末 秀生 | Risk calculator for predicting postoperative pneumonia after gastroenterological surgery based on a national Japanese database | Annals of Gastroenterological Surgery | First published: 22 April 2019 |
| 2015 | 日本外科学会 | 土岐 祐一郎 | Frequency and risk factors for venous thromboembolism after gastroenterological surgery based on the Japanese National Clinical Database (516,217 cases) | Annals of Gastroenterological Surgery | First published: 22 July 2019 |
| 2016 | 日本肝胆膵外科学会 | 窪田 敬一 | Use of the National Clinical Database to evaluate the association between preoperative liver function and postoperative complications among patients undergoing hepatectomy | Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences | First published: 18 June 2019 |
| 2017 | 日本食道学会 | 黒崎 秀夫 | Response to Comment on "Can Minimally Invasive Esophagectomy Replace Open Esophagectomy for Esophageal Cancer? Latest Analysis of 24,233 Esophagectomies From the Japanese National Clinical Database" | Annals of Surgery | Publication Date: December 2019 |
| 2018 | 日本食道学会 | 木山 悟 | Impact of certification status of the institute and surgeon on short-term outcomes after surgery for thoracic esophageal cancer: evaluation using data on 16,752 patients from the National Clinical Database in Japan | Esophagus | First Online: 03 October 2019 |
| 2018 | 日本胃癌学会 | 井ノ口 幹人 | Feasibility of laparoscopic gastrectomy for patients with poor physical status: A retrospective cohort study based on a nationwide registry database in Japan | Gastric Cancer | First Online: 22 July 2019 |
| — | 日本消化器外科学会 | 長谷川 寛 | Surgical outcomes of gastroenterological surgery in Japan: Report of the National Clinical Database 2011-2017 | Annals of Gastroenterological Surgery | First published: 20 May 2019 |
| 2013 | 日本消化器外科学会 | 後藤 満一 | Significance of the board-certified surgeon systems and clinical practice guideline adherence to surgical treatment of esophageal cancer in Japan: a questionnaire survey of departments registered in the National Clinical Database | Esophagus | Published: 12 April 2019 |
| — | 日本消化器外科学会 | 宇田川 晴司 (大倉 遊) | Development of a model predicting the risk of eight major postoperative complications after esophagectomy based on 10,826 cases in the Japan National Clinical Database | Journal of Surgical Oncology | Accepted 27 November 2019 |
| 2016 | 日本胸膈学会 | 岡崎 和一 | Risk model for severe postoperative complications after total pancreatectomy based on a nationwide clinical database | British Journal of Surgery | First published: 31 January 2020 |
| — | 日本消化器外科学会 | 掛地 吉弘 | Surgical outcomes in gastroenterological surgery in Japan: Report of the National Clinical Database 2011-2018 | Annals of Gastroenterological Surgery | First published: 20 March 2020 |
| 2017 | 日本肝胆膵外科学会 | 田邊 祐 | Safe dissemination of laparoscopic liver resection in 27,146 cases between 2011 and 2017 from the National Clinical Database of Japan | Annals of Surgery | 2020 Mar 20(Epub ahead of print) |
| 2017 | 日本肝胆膵外科学会 | 中村 雅史 | Definition of the Objective Threshold of Pancreatoduodenectomy With Nationwide Data Systems | Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences | First published: 26 December 2019 |
| 2013 | 日本消化器外科学会 | 後藤 満一 | Impact of adherence to board-certified surgeon systems and clinical practice guidelines on colon cancer surgical outcomes in Japan: A questionnaire survey of the National Clinical Database | Annals of Gastroenterological Surgery | First published: 07 April 2020 |
| 2013 | 日本消化器外科学会 | 後藤 満一 | Impact of board certification system and implementation of clinical practice guideline for pancreatic cancer on mortality of pancreaticoduodenectomy | Surgery Today | Published: 07 May 2020 |
| 2013 | 日本胃癌学会 | 内谷 彰 | Preoperative risk factors for postoperative intra-abdominal infectious complication after gastrectomy for gastric cancer using a Japanese web-based nationwide database | Gastric Cancer | Published: 21 May 2020 |
| 2018 | 日本腹部救急医学会 | 星野 伸晃 | Emergency surgery for gastrointestinal cancer: a nationwide study in Japan based on the National Clinical Database | Annals of Gastroenterological Surgery | First published: 21 June 2020 |
| — | 日本消化器外科学会 | 掛地 吉弘 | Development of gastroenterological surgery over the last decade in Japan: analysis of the National Clinical Database | Surgery Today | Published: 17 July 2020 |
| 2019 | 日本内視鏡外科学会 | 松田 武 | Clinical outcome of laparoscopic vs open right hemicolectomy for colon cancer: A propensity score matching analysis of the Japanese National Clinical Database | Annals of Gastroenterological Surgery | First published: 01 August 2020 |
| 2017 | 日本内視鏡外科学会 | 赤木 智徳 | Clinical impact of Endoscopic Surgical Skill Qualification System (ESSQS) by JSES for laparoscopic distal gastrectomy and low anterior resection based on the NCD registry | Annals of Gastroenterological Surgery | First published: 31 August 2020 |

| 申請年度 | 申請団体 | 研究代表者 | 研究内容 | 投稿先: 発表先 | 掲載媒体詳細: 発表日 |
|------|-----------|--------|--|---|--|
| 2017 | 日本消化器外科学会 | 丸橋 繁 | Geriatric Risk Prediction Models for Major Gastroenterological Surgery using the National Clinical Database in Japan: A Multicenter Prospective Cohort Study | Annals of Surgery | October 15, 2020 – Volume Publish Ahead of Print |
| 2018 | 日本肝胆膵外科学会 | 高橋 秀夫 | Risk Factors for Bile Leakage: Latest Analysis of 10,102 Hepatectomies for Hepatocellular Carcinoma from the Japanese National Clinical Database | Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences | First published: 08 September 2020 |
| 2019 | 日本腹部救急医学会 | 山田 岳史 | Emergency surgery for gastrointestinal cancer: A nationwide study in Japan based on the National Clinical Database | Annals of Gastroenterological Surgery | First published: 21 June 2020 |
| 2015 | 日本内視鏡外科学会 | 長谷川 博俊 | Safety and Feasibility of Laparoscopic Surgery for Elderly Rectal Cancer Patients in Japan: a nationwide study | BJS Open | 2020/10/17 submitted 2021/1/20 accepted |
| 2017 | 日本消化器外科学会 | 今野 弘之 | Profiles of institutional departments affect operative outcomes of eight gastroenterological procedures | Annals of Gastroenterological Surgery | First published: 20 February 2021 |
| 2019 | 日本肝胆膵外科学会 | 花崎 和弘 | Association of day of the week with mortality after elective right hemicolectomy for colon cancer: Case analysis from the National Clinical Database | Annals of Gastroenterological Surgery | First published: 15 January 2021 |
| 2019 | 日本食道学会 | 渡邊 雅之 | Association between preoperative HbA1c levels and complications after esophagectomy: Analysis of 15 601 esophagectomies from the National Clinical Database in Japan | Annals of Surgery | 2020/9/25 accepted |

学会名：日本心臓血管外科手術データベース機構

| 申請年度 | 申請団体 | 研究代表者 | 研究内容 | 投稿先・発表先 | 掲載媒体詳細・発表日 |
|------|--------------------|--------|--|---|---|
| 2014 | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | 帆足 孝也 | ダウン症候群に伴う先天性心疾患に対する外科治療成績 | Circulation Journal The Society of Thoracic Surgeons (STS) 53rd Annual Meeting 2017 | 2017 Sep 12. doi: 10.1253/circj.CJ-17-0483. Jan. 2017, Houston, TX |
| 2014 | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | 橋本 力 | 低左心機能患者におけるCPBとOn-pump CABGの比較検討 | 第45回日本心臓血管外科学会学術総会 American Association for Thoracic Surgery (AATS) 95th Annual Meeting 2015 The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery | 2015年2月(京都) Apr. 2015, Seattle, Washington 2016 Apr; 151(4):1092-8. |
| 2014 | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | 阪原 孝 | 大動脈弁退縮症の全日本調査 | 第43回日本血管外科学会学術総会 第58回 関西胸部外科学会学術集会 | 2015年5月(神奈川) 2015年6月(岡山) |
| 2014 | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | 宮入 剛 | 大動脈ステントグラフト挿入後の大動脈解離症例の検討 | 第45回日本血管外科学会学術総会 The Annals of Thoracic Surgery | 2016年5月(広島) 2016 May; 102(5):1392-1396. doi: . |
| 2014 | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | 阪原 孝 | 非僧帽弁手術における心臓補助に対する外科的肺静脈閉鎖術の有効性 | General Thoracic and Cardiovascular Surgery | 2017 May 23. doi: 10.1007/s11748-017-0785-x. |
| 2014 | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | 大北 裕 | 胸部大動脈瘤手術における慢性閉塞性肺疾患の影響 | European Journal of Cardio-Thoracic Surgery | 2017 Apr 1; 51(4):761-766. |
| 2014 | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | 夜久 均 | 開心術後の大動脈狭窄症に対する大動脈弁置換術の成績および手術リスク因子の検討 | European Journal of Cardio-Thoracic Surgery | 2017 Feb 1; 51(2):347-353 |
| 2014 | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | 橋本 力 | 冠動脈インターベンション既往が冠動脈バイパス手術の周術期成績に与える影響の検討 | 第68回日本胸部外科学会定期学術集会 The Society of Thoracic Surgeons (STS) 52nd Annual Meeting The Annals of Thoracic Surgery | 2015年10月(神戸) 2016; Phoenix, Arizona 2017 Jul; 104(1):56-61 |
| 2014 | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | 夜久 均 | OFF-PUMP CABGと ON-PUMP CABGの術後中期成績の比較 | 29th European Association for Cardio-Thoracic Surgery (EACTS) Annual Meeting | Oct. 2015, Amsterdam, The Netherlands |
| 2014 | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | 佐々木 啓明 | 各慢性腎不全病期におけるオフポンプ冠動脈バイパス術の有用性の検討 | 第46回日本心臓血管外科学会学術総会 The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery | 2016年2月(名古屋) 2018 Apr 12. pii: S0022-5223(18)30934-6 |
| 2015 | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | 宮田 裕章 | 医療機器の市販後における使用成績評価の質及び信頼性の確保のための要件等に関する研究(厚生労働科学研究委託業務) | 32nd International Conference on Pharmacokinetics and Therapeutic Risk Management | Aug. 2016; Dublin, Ireland |
| 2015 | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | 佐々木 啓明 | 心臓血管外科手術における出血量の予測因子について | Journal of Cardiothoracic and Vascular Anesthesia | 2017 Oct 13. pii: S1053-0770(17)30802-9 |
| 2015 | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | 坂東 興 | Impact of Body Mass Index and Albumin on Morbidity and Mortality after Cardiac Surgery in Geriatric Patients | 第30回日本冠動脈学会学術集会 American Heart Association (AHA) 2017 | 2016年12月(東京) Nov. 2017, Anaheim California |
| 2015 | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | 福田 巖夫 | 急性心臓病に対する外科治療の日本の現状 | Circulation Journal | 2018 Jun 27. doi: 10.1253/circj.CJ-18-0371. |
| 2015 | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | 杉本 晃一 | 単心室における房室弁置換術の遠隔期成績の検討 | 21st European Association for Cardio-Thoracic Surgery (EACTS) Annual Meeting Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery | Oct. 2017, Vienna, Austria 2018 Dec 1; 27(6):895-900 |
| 2016 | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | 塚庭 了 | 心室中隔欠損症に対して広く行われている外科的閉鎖術に際して、低体重の術後経過への影響を検討する | American Heart Association (AHA) 2018 | Nov. 10, 2018 |
| 2016 | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | 坂口 元一 | 心筋梗塞後心室中隔穿孔の周術期成績の検討 | 第47回日本心臓血管外科学会学術総会 | 2017年2月(東京) |
| 2016 | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | — | 本邦における再開心術(人工弁置換術) | European Journal of Cardio-Thoracic Surgery | European Journal of Cardio-Thoracic Surgery 00 (2020) 1-9 |
| 2016 | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | — | 急性A型大動脈解離の手術成績、患者背景の経時的な推移 | European Journal of Cardio-Thoracic Surgery | European Journal of Cardio-Thoracic Surgery. eoz323 |
| 2016 | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | 徳田 順之 | 本邦における大動脈弁手術における患者背景の推移と手術成績の解析 | 第71回日本胸部外科学会定期学術集会 | 2018年10月(東京) |
| 2016 | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | 櫻岡 録 | Surveillance of AF Surgery in Asia-Pacific Region | 9th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session 2016 | Oct. 2016, Seoul |
| 2017 | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | 西 宏之 | 右小腸閉塞弁手術の有用性および安全性の検討 ~本邦におけるリスクファクターの解析~ | 第70回日本胸部外科学術総会演題登録 第71回日本胸部外科学術総会演題登録 | 2017年10月(岡山) 2018年10月(東京) |
| 2017 | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | — | オフポンプ冠動脈バイパス術における術中コンバージョンのリスク解析 | The effect of hospital and surgeon procedure volume on incidence of intraoperative conversion during off-pump coronary artery bypass grafting American Association for Thoracic Surgery (AATS) 99th Annual Meeting Toronto, Canada 2019 | Seminars in Thoracic and Cardiovascular Surgery 66:86-88 © 2020 |
| 2017 | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | — | 低リスク大動脈弁置換術症例の成績と施設間差の検討 | Impact of In-Hospital Transcatheter Aortic Valve Replacement Availability on Outcomes of Surgical Aortic Valve Replacement in Elderly Patients American Association for Thoracic Surgery (AATS) 99th Annual Meeting Toronto, Canada 2019 | Circulation Journal doi: 10.1253/circj.CJ-20-0032 |
| 2017 | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | — | 急性心筋梗塞後の僧帽弁閉鎖不全症への治療検討 | Gen Thorac Cardiovasc Surg | Gen Thorac Cardiovasc Surg 2020 Jan 25. doi: 10.1007/s11748-020-01418-y |
| 2017 | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | — | 中等度及び高リスク大動脈弁置換術症例の成績と施設間差の検討 | Circulation Journal | Circulation Journal. 2020 Aug 25. doi: 10.1253/circj.CJ-20-0032 |
| 2017 | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | — | 本邦における遠隔大動脈弁狭窄症に対する大動脈弁置換術のsurgical AVRの成績 | Circulation Journal | Circulation Journal. 2020 Jul 22. doi: 10.1253/circj.CJ-20-0042 |

| 申請年度 | 申請団体 | 研究代表者 | 研究内容 | 投稿先・発表先 | 掲載媒体詳細・発表日 |
|------|--------------------|-------|--|---|--|
| 2017 | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | — | 急性心筋梗塞後の僧帽弁閉鎖不全症への治療検討 | Gen Thorac Cardiovasc Surg | Gen Thorac Cardiovasc Surg 2020 Jun 25. doi: 10.1007/s11748-020-01418-y |
| 2017 | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | — | 中等度及び高リスク大動脈弁置換術症例の成績と施設間差の検討 | Impact of In-Hospital Transcatheter Aortic Valve Replacement Availability on Outcomes of Surgical Aortic Valve Replacement in Elderly Patients American Association for Thoracic Surgery (AATS) 99th Annual Meeting Toronto, Canada 2019 | Circulation Journal. 2020 Aug 25. doi: 10.1253/circj. CJ-20-0032 |
| 2017 | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | — | 本邦における遠隔大動脈弁狭窄症に対する大動脈弁置換術のsurgical AVRの成績 | Circulation Journal | Circulation Journal. 2020 Jul 22. doi: 10.1253/circj. CJ-20-0042 |
| 2018 | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | — | 胸部心臓血管外科領域におけるSS 3発生の現状とその影響 | 第32回日本外科学会総会学術集会 2019年11月(岐阜) | 日本外科学会誌 17(2): 54-59. 2020. |
| 2018 | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | — | Impact of Body Mass Index on Morbidity and Mortality after Cardiac Surgery in Geriatric Patients Part3: Thoracic aortic surgery | J Thorac Cardiovasc Surg | J Thorac Cardiovasc Surg. 2020 Aug; 160(2): 409-420. e14. doi: 10.1016/j.jtcvs. 2019. 07. 048. Epub 2019 Sep 28. |
| 2019 | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | — | 時空間因子の複合的な効果が急性大動脈症候群の手術後の予後に及ぼす影響 | Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery | DOI: https://doi.org/10.1016/j.jtcvs. 2020. 03. 043 |
| 2019 | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | — | 東日本大震災前後における先天性心疾患手術者の動向についての調査 | Journal of the American Heart Association | Journal of the American Heart Association 10.1161/JAHA.119.014787 |
| 2019 | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | — | 日本における急性A型大動脈解離の治療 | The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery | The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2020 Nov 11. |
| — | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | — | Risk model of thoracic aortic surgery in 4707 cases from a nationwide inpatient population through a web-based data entry system: the first report of 30-day and 30-day operative outcome risk models for thoracic aortic surgery. | Circulation | Circulation. 2008 Sep 30; 118(14 Suppl): S153-9. doi: 10.1161/CIRCULATIONAHA.107.756684. |
| — | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | — | First report on 30-day and operative mortality in risk model of isolated coronary artery bypass grafting in Japan. | Ann Thorac Surg | Ann Thorac Surg. 2008 Dec; 86(6): 1866-72. doi: 10.1016/j.athoracsur. 2008. 08. 001. |
| — | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | — | Risk model of valve surgery in Japan using the Japan Adult Cardiovascular Surgery Database. | J Heart Valve Dis | J Heart Valve Dis. 2010 Nov; 19(6): 684-91. |
| — | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | — | Risk models including high-risk cardiovascular procedures: clinical predictors of mortality and morbidity. | Eur J Cardiothorac Surg | Eur J Cardiothorac Surg. 2011 May; 39(5): 667-74. doi: 10.1016/j.ejcts. 2010. 08. 050. Epub 2010 Nov 2. |
| — | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | — | Effect of benchmarking projects on outcomes of coronary artery bypass graft surgery: challenges and prospects regarding the quality improvement initiative. | J Thorac Cardiovasc Surg | J Thorac Cardiovasc Surg. 2012 Jun; 143(6): 1364-9. doi: 10.1016/j.jtcvs. 2011. 07. 010 |
| — | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | — | 本邦における2017、2019年の心臓血管外科手術の現状: 日本心臓血管外科手術データベース(JOVS)からの報告 2. 単独冠動脈バイパス手術 | 日本心臓血管外科学会誌 | 日本心臓血管外科学会誌 2020年49巻4号p. 155-159 |
| — | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | — | 本邦における2017、2019年の心臓血管外科手術の現状: 日本心臓血管外科手術データベース(JOVS)からの報告 3. 心臓弁膜症手術 | 日本心臓血管外科学会誌 | 日本心臓血管外科学会誌 2020年49巻4号p. 160-168 |
| — | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | — | 本邦における2017、2019年の心臓血管外科手術の現状: 日本心臓血管外科手術データベース(JOVS)からの報告 4. 胸部大動脈手術 | 日本心臓血管外科学会誌 | 日本心臓血管外科学会誌 2020年49巻4号p. 169-179 |
| — | 日本心臓血管外科手術データベース機構 | — | Long-term results of bilateral pulmonary artery banding versus primary Norwood procedure | Pediatr Cardiol | Pediatr Cardiol. 2018 Jan; 39(1): 111-119 |

学会名: 日本心臓血管外科手術データベース機構、日本心臓血管インターベンション治療学会 共同研究

| 申請年度 | 申請団体 | 研究代表者 | 研究内容 | 投稿先・発表先 | 掲載媒体詳細・発表日 |
|------|---|-------|------------------------|------------------------------|------------|
| 2016 | 日本心臓血管外科手術データベース機構 日本心臓血管インターベンション治療学会 | — | 施設内CABGおよびPCI 症例数対比の検討 | Journal of Clinical Medicine | — |

マニュアルの詳細は各学会へお問い合わせください

学会名: 日本小児外科学会

| 申請年度 | 申請団体 | 研究代表者 | 研究内容 | 投稿先・発表先 | 掲載媒体詳細・発表日 | 備考 |
|---------------|----------------|--------------------|---|------------------------------|---|-------------------|
| 2016 (掲載年) | 日本小児外科学会 | 日本小児外科学会 NCD 連絡委員会 | 日本小児外科学会データベース委員会: National Clinical Database (小児外科領域) Annual Report 2011-2012. | 日本小児外科学会誌 | 52: 1350-1359. 2016 | 会員のみ閲覧可のためリンクは非掲載 |
| 2018 (掲載年) | 日本小児外科学会 | 日本小児外科学会 NCD 連絡委員会 | 日本小児外科学会データベース委員会: National Clinical Database (小児外科領域) Annual Report 2013-2014 | 日本小児外科学会誌 | 54: 314-335. 2018 | 会員のみ閲覧可のためリンクは非掲載 |
| 2019 (掲載年) | 日本小児外科学会 | 日本小児外科学会 NCD 連絡委員会 | 日本小児外科学会データベース委員会: National Clinical Database (小児外科領域) Annual Report 2015-2017 | 日本小児外科学会誌 | 55: 298-303. 2019 (補遺: 55:890-894. 2019) | 会員のみ閲覧可のためリンクは非掲載 |
| (進行中) | 日本小児外科学会 | 日本小児外科学会 NCD 連絡委員会 | 日本小児外科学会データベース委員会: National Clinical Database (小児外科領域) Annual Report 2017-2018 | 日本小児外科学会誌 | 未投稿 | |
| — | 日本小児外科学会(東京大学) | 藤代 準 | Abdominal Drainage at Appendectomy for Complicated Appendicitis in Children: A Propensity-matched Comparative Study | Annals of Surgery | 2020 Jan 21. doi: 10.1097/SLA.0000000000000308. Online ahead of print. | |
| 2017 | 日本小児外科学会 | 照井 慶次 | Development and validation of risk models for mortality and morbidity in 12 major pediatric surgical procedures: A study from the National Clinical Database-Pediatric of Japan | Journal of Pediatric Surgery | 2020 Oct; 55(10):2084-2070. doi: 10.1016/j.jpedsurg. 2020. 03. 031. Epub 2020 Apr 12. | |
| — | 日本小児外科学会(東京大学) | 藤代 準 | Laparoscopic versus open appendectomy for acute appendicitis in children: A nationwide retrospective study on postoperative outcomes. | J Gastrointest Surg | 2020 Mar 3. doi: 10.1007/s11608-020-04544-3. Online ahead of print. | |

マニュアルの詳細は各学会へお問い合わせください

学会名: 日本呼吸器外科学会

| 申請年度 | 申請団体 | 研究代表者 | 研究内容 | 投稿先・発表先 | 掲載媒体詳細・発表日 |
|------|-----------|-------|---|---|---|
| 2017 | 日本呼吸器外科学会 | 田中 雄悟 | Preoperative cumulative smoking dose on lung cancer surgery in a Japanese nationwide database | Annals of Thoracic Surgery | 2021 Feb 15 DOI: 10.1016/j.athoracsur.2021.01.055 |
| 2017 | 日本呼吸器外科学会 | 宮崎 拓郎 | Certified thoracic surgeons in Japan: a survey of risk-adjusted mortality in lung resection by a national database | Surgery Today. | 2021 Jan 30 DOI: 10.1007/s00595-021-02227-3 |
| 2016 | 日本呼吸器外科学会 | 池田 徳彦 | Current status of surgery for clinical stage IA lung cancer in Japan: analysis of the national clinical database | Surgery Today. | Published: 05 July 2020 DOI: 10.1007/s00595-020-02063-x |
| - | 日本呼吸器外科学会 | 遠藤 俊輔 | Risk assessments for broncho-pulmonary fistula and respiratory failure after lung cancer surgery by National Clinical Database Japan. | General Thoracic and Cardiovascular Surgery | 2018 Oct 16. doi: 10.1007/s11748-018-1022-y |
| - | 日本呼吸器外科学会 | 遠藤 俊輔 | Model of lung cancer surgery risk derived from a Japanese nationwide web-based database of 78 594 patients during 2014-2015. | European Journal of Cardio-Thoracic Surgery | 2017 Dec 1; 52(6):1182-1189. doi: 10.1093/ejcts/ezx190. |
| - | 日本呼吸器外科学会 | 遠藤 俊輔 | Development of an annually updated Japanese national clinical database for chest surgery in 2014. | General Thoracic and Cardiovascular Surgery | 2016 Oct; 64(10):569-76. doi: 10.1007/s11748-016-0697-1. |

アナウンスの詳細は各学会へお問い合わせください

学会名: 日本心血管インターベンション治療学会

| 申請年度 | 申請団体 | 研究代表者 | 研究内容 | 投稿先・発表先 | 掲載媒体詳細・発表日 |
|------|--------------------|--------|--|---|--------------------------------|
| 2016 | 日本心血管インターベンション治療学会 | 山地香平 | Relation of ST-Segment Elevation on Myocardial Infarction to Daily Ambient Temperature and Air Pollutant Levels in a Japanese Nationwide Percutaneous Coronary Intervention Registry | The American Journal of Cardiology | 2017 Mar 15; 119(6):872-880. |
| 2016 | 日本心血管インターベンション治療学会 | 沼澤洋平 | Comparison of Outcomes of Women Versus Men with Non-ST-elevation Acute Coronary Syndromes Undergoing Percutaneous Coronary Intervention (from the Japanese Nationwide Registry) | The American Journal of Cardiology | 2017 Mar 15; 119(6):828-831. |
| 2016 | 日本心血管インターベンション治療学会 | 坂倉 健一 | Incidence and Determinants of Complications in Rotational Atherectomy: Insights From the National Clinical Data (J-PCI Registry) | Circulation: Cardiovascular Interventions | 2016 Nov; 9(11): pii: e004278. |
| 2017 | 日本心血管インターベンション治療学会 | 久保俊介 | In-Hospital Outcomes After Percutaneous Coronary Intervention for Acute Coronary Syndrome With Cardiogenic Shock (from a Japanese Nationwide Registry [J-PCI Registry]) | Am J Cardiol | 2019 May 15; 123(10):1595-160 |
| 2017 | 日本心血管インターベンション治療学会 | 沼澤洋平 | Comparison of Outcomes After Percutaneous Coronary Intervention in Elderly Patients, Including 10 628 Nongenarians: Insights From a Japanese Nationwide Registry (J-PCI Registry) | J Am Heart Assoc | 2019 Mar 5; 8(5):e011183 |
| 2017 | 日本心血管インターベンション治療学会 | 秋田 敬太郎 | Impact of reduced-dose prasugrel vs. standard-dose clopidogrel on in-hospital outcomes of percutaneous coronary intervention in 62 737 patients with acute coronary syndromes: a nationwide registry study in Japan | Eur Heart J Cardiovasc Pharmacother | 2020 Jul 1; 6(4):231-238 |
| 2017 | 日本心血管インターベンション治療学会 | 大野洋平 | Incidence and In-Hospital Outcomes of Patients Presenting With Stent Thrombosis (from the Japanese Nationwide Percutaneous Coronary Adverse Outcomes after Percutaneous Coronary Intervention among Non-Dialysis Patients: Insights from a Japanese Nationwide Registry (J-PCI Registry)) | Am J Cardiol | 2020 Mar 1; 125(5):720-726 |
| 2018 | 日本心血管インターベンション治療学会 | 沼澤洋平 | Association of the Hemoglobin to Serum Creatinine Ratio with In-Hospital Adverse Outcomes after Percutaneous Coronary Intervention among Non-Dialysis Patients: Insights from a Japanese Nationwide Registry (J-PCI Registry) | J Clin Med | 2020 Nov 10; 9(11):3612 |
| 2018 | 日本心血管インターベンション治療学会 | 石原隆行 | Impact of peripheral artery disease on short-term outcomes after percutaneous coronary intervention: A report from Japanese nationwide Procedural Volume and Outcomes After Percutaneous Coronary Intervention for Unprotected Left Main Coronary Artery Disease - Report from the National Clinical Data (J-PCI Registry) | PLoS One | 2020 Oct 6; 15(10):e0240095 |
| 2018 | 日本心血管インターベンション治療学会 | 相川 忠夫 | Contemporary use and trends in percutaneous coronary intervention in Japan: an outline of the J-PCI registry | J Am Heart Assoc | 2020 May 5; 9(5):e015404 |
| 2020 | 日本心血管インターベンション治療学会 | 澤野 光明 | Post-interventional adverse event risk by vascular access site among patients with acute coronary syndrome in Japan: observational analysis with a national registry (J-PCI database) | Cardiovasc Interv Ther | 2020 Jul; 35(3):218-228 |
| 2019 | 日本心血管インターベンション治療学会 | 藤井 敏晴 | Diabetes mellitus and other cardiovascular risk factors in lower-extremity peripheral artery disease versus coronary artery disease: an analysis of 11 121 359 cases from the nationwide databases | Cardiovasc Diabetol | 2019 Nov 15; 18(1):155 |
| 2019 | 日本心血管インターベンション治療学会 | 香坂 俊 | Outcome of Percutaneous Coronary Intervention in Relation to the Institutional Volume of Coronary Artery Bypass Surgery | J Clin Med | 2020 Apr 27; 9(5):1267 |
| 2020 | 日本心血管インターベンション治療学会 | 猪原 拓 | Risk stratification model for in-hospital death in patients undergoing percutaneous coronary intervention: a nationwide retrospective cohort | BMI Open | 2019 May 22; 9(5):e026683 |
| 2020 | 日本心血管インターベンション治療学会 | 猪原 拓 | Comparative Trends in Percutaneous Coronary Intervention in Japan and the United States, 2013 to 2017 | J Am Coll Cardiol | 2020 Sep 15; 76(11):1328-1340 |
| 2020 | 日本心血管インターベンション治療学会 | 高原 亮佳 | Presentation Pattern of Lower Extremity Endovascular Intervention versus Percutaneous Coronary Intervention | Jtheroscler Thromb | 2020 Aug 1; 27(8):761-768 |
| 2020 | 日本心血管インターベンション治療学会 | 山地香平 | Population Density Analysis of Percutaneous Coronary Intervention for ST-Segment Elevation Myocardial Infarction in Japan | J Am Heart Assoc | 2020 Aug 4; 9(15):e016952 |
| 2017 | 日本心血管インターベンション治療学会 | 猪原 拓 | Impact of Institutional and Operator Volume on Short-Term Outcomes of Percutaneous Coronary Intervention: A Report From the Japanese Nationwide An overview of percutaneous coronary intervention in dialysis patients: Insights from a Japanese nationwide registry | JACC Cardiovasc Interv | 2017 May 8; 10(9):918-927 |
| 2019 | 日本心血管インターベンション治療学会 | 沼澤洋平 | | Catheter Cardiovasc Interv | 2019 Jul 1; 94(1):E1-E8 |

アナウンスの詳細は下記の学会HPよりご確認ください
URL: http://www.cvit.jp/registry/data_manager/

26. 総務委員会

委員長 池田 徳彦

1. 定期学術集会運営委託業者について

令和4(2022)年4月開催の第122回と、令和5(2023)年4月開催の第123回の定期学術集会の運営委託業者については、過去の委託実績を持つ3社を対象とし、企画書および見積書を取寄せた上で、過去の会頭からの実績報告書なども参考に、プレゼンテーションを経て決定し、理事会決議を得た。

2. 事務所の移転について

事務所が入居している「世界貿易センタービル」の建替え工事に伴い、令和3(2021)年6月下旬に新築の「世界貿易センタービル 南館」に移転することとなり、そのための業者選定を行うなどして、準備を進めている。

3. 事務局職員のリモートワーク化について

コロナ禍に伴う緊急事態宣言下においては、事務局には暫定的にリモートワークを指示したが、今後も恒久的なリモートワーク体制を構築するため、専門家によるコンサルテーションを受けた上で、法令に従った就業規則類の変更や、必要なIT機器の整備などを行い、令和3(2021)年中にはリモートワークを開始させる予定である。

なお、併せて事務局職員の担当部署の異動を行うと共に、1名の職員を新規雇用とした(引き続き、若干名の職員を新規雇用の予定である)。

4. 事務所会議室の貸与について

他学会・研究会などに事務所の会議室を貸与しているが、令和2年度はコロナ禍のため、日本胆道学会、日本血管外科学会、日本癌病態治療研究会、呼吸器外科専門医合同委員会からの4件の申込みにとどまった。

なお、新しい事務所でも、引き続き会議室貸与を行う予定である。

27. 将来計画委員会

委員長 森 正樹

引き続き「外科専門医のインセンティブ」「訴訟対策」「学術集会の在り方」「国際化推進」の各ワーキンググループ(WG)に分かれて、それぞれ重要課題を検討中である。

なお、「AIの活用」WGが厚生労働科学特別研究事業「ナショナルビッグデータを用いた新専門医制度の地域外科医療に及ぼす影響の評価研究」として実施した「外科医師の勤務実態に関するアンケート」の集計結果は、ホームページで公開済みである(<http://www.jssoc.or.jp/other/info/info20201113.html>)。

1) 「外科専門医のインセンティブ」ワーキンググループ

リーダー 碓氷 章彦

「外科専門医のインセンティブ」WGでは、平成31（2019）年1月から2月にかけて、外科専門医制度修練施設（指定/関連施設）の施設長を対象に実施したアンケート調査（結果はホームページで公開済み）に引き続いて、令和3（2021）年2月に、外科系サブスペシャリティ学会を対象に「外科医のインセンティブ」に対する意識調査を実施し、その結果を受けて、サブスペシャリティ学会と「外科医のインセンティブ」についての合同委員会の立ち上げを予定している。

2) 「訴訟対策」ワーキンググループ

リーダー 平野 聡

「訴訟対策」WGは、外科医が委縮することなく安心して手術ができる体制を構築することを目的として、産科医療補償制度に倣った、日本外科学会独自の無過失補償制度（No-Fault Compensation：NFC）の可能性を検討してきたが、保険料の基となる原資の問題がとて大きく、学会独自の制度設計は実現困難なので、国会議員や厚生労働省などと相談して、社会インフラとしての無過失補償制度の可能性を模索している。

そこで、令和3年度は日本外科学会として社会提言を行うため、Feasibility studyを提案して、厚生労働科学研究費の獲得を目指したい。

3) 「学術集会の在り方」ワーキンググループ

リーダー 中村 雅史

「学術集会の在り方」WGでは、外科医が減少し、働き方改革も進行しているにもかかわらず、依然として学会や研究会の数が多く、しばしば内容も重複していることが、参加にあたっての負担となっているという現状を踏まえて、外科系の各サブスペシャリティ学会も共に一堂に会して、それぞれの学術集會も合同に行うという“Surgical Week”の開催を提案し、具体的に各サブスペシャリティ学会の理事長とも協議を行った。

また、令和元（2019）年12月には「学術集会の在り方」に関する会員アンケートを実施し、内容の重複した学術集會が多いことが負担になっている実態が明らかとなった（アンケート結果はホームページで公開済み）。

しかしながら、新型コロナ感染症により多くの学術集會がWeb/ハイブリッド開催となり、その影響は今後も残ると考えられる。結果的に“Surgical Week”の概念自体も再考が必要となった。今後は完全Web開催となった第120回定期学術集會の参加者アンケートの結果などを基に、関連各学会と“Surgical Week”も含めた今後の学術集會の在り方についての合意形成を進めていきたい。

4) 「国際化推進」ワーキンググループ

リーダー 大木 隆生

「国際化推進」WGでは、インドやアフリカ諸国などにも国際交流の輪を広げるために検討と交渉を重ねている（→詳細は国際委員会報告の「7. アフリカとインドとの交流について」の項に記載）。

28. 選挙管理・選挙制度検討委員会

委員長 大塚 将之

開票作業の簡素化、および費用削減のための電子投票システム化について、次回の代議員選挙に間に合うよう引き続き検討を進めている。

選挙方法の見直しなど課題については、継続審議中である。

VI. その他（加盟団体）

29. 外科関連学会協議会

座長 馬場 秀夫

本年度は諮問事項がなかったため、開催していない。

なお、「症例報告を含む医学論文及び学会研究会発表における患者プライバシー保護に関する指針」（143頁）に、日本体外循環技術医学会が新たに賛同した。

30. 日本医学会

評議員 大木 隆生

「第88回定例評議員会」は、令和3（2021）年2月26日にオンライン形式で開催された。
また、令和5（2023）年開催の第31回日本医学会総会に関する各種アンケートに回答した。

31. 一般社団法人日本医学会連合

社員代表 森 正樹

1. 日本医学会連合の定時総会について

令和2（2020）年6月24日に開催され、前年度の事業報告および決算などが決議された。

また、日本女性医学学会、日本てんかん学会、日本インターベンショナルラジオロジー学会、および日本内分泌外科学会の新規入会が承認された。

2. 令和2（2020）年度日本医学会連合加盟学会連絡協議会について

令和3（2021）年2月10日にオンライン形式で開催された。

3. 令和2（2020）年度臨時社員総会について

令和3（2021）年2月26日にオンライン形式で開催された。

4. Japan CDC 創設に関する委員会について

「Japan CDC 創設に関する委員会」からアンケートの依頼があり、回答した。

また、「健康危機管理と疾病予防を目指した政策提言のための情報分析と活用並びに人材支援組織の創設」の提言がまとめられた。

32. 移植関係学会合同委員会

代表委員 伊 達 洋 至

第40回、第41回合同委員会における議事要旨は以下の通りである。

また、令和2(2020)年5月13日および令和3(2021)年3月8日、日本腎臓学会から腎臓移植実施施設認定の取り消しの報告に伴い、以下の腎臓移植実施施設の認定取り下げがなされた。

- ・医療法人立川メディカルセンター 立川総合病院
- ・埼玉医科大学国際医療センター

第40回議事要旨

日時：令和2(2020)年5月26日(火) 書面開催

議事

以下のとおり臓器移植実施施設の認定が決定した。

- ・腎臓移植 認定：獨協医科大学埼玉医療センター、旭川医科大学病院
- ・小児心臓移植 認定：九州大学病院

第41回議事要旨

日時：令和2(2020)年12月1日(火) 書面開催

議事

以下のとおり臓器移植実施施設の認定が決定した。

- ・肺移植 認定：藤田医科大学病院

33. 日本臓器移植関連学会協議会

代表委員 伊 達 洋 至

特段の報告事項はない。

34. 公益財団法人日本医療機能評価機構

評価委員 小 野 稔

国民の健康と福祉の向上に寄与することを目的とし、中立的・科学的な第三者機関として医療の質の向上と信頼できる医療の確保に関する事業を行う公益財団法人である。

毎月開催されている病院機能評価事業の評価委員会に参加をしている。審査は基本的な病院の構成、機能などについてサーベイヤーが調査した資料に基づき審査し、認定証の発行を行っている。

医療法の改正により、広告の規制緩和が承認され日本医療評価機構の認定書を取得したことを広告できるようになっている。

現在、病院総数 8,273 施設のうち認定書が発行されたのは 2,121 施設 (25.6%) である。(令和3年1月4

日現在)

医療事故情報収集等事業 第 63 回報告書 (2020 年 7 月～9 月) を公表した。

本年 1 月 15 日付にて医療安全情報 No.170 を公表した。

公益財団法人日本医療機能評価機構 (<http://jcqhc.or.jp/>)

35. 学会認定・臨床輸血看護師制度協議会

代表委員 池 上 徹

臨床輸血に精通し、安全な輸血に寄与できる看護師の育成を目的とし、日本輸血細胞治療学会が主体となり、日本血液学会、日本麻酔科学会、日本産科婦人科学会、日本外科学会 (2009 年 12 月より参加) が協力団体、日本看護協会が推薦団体となる形で、2009 年 2 月 1 日に学会認定・臨床輸血看護師制度が設立。毎年講習会後に資格試験を実施。筆記試験合格後、指定施設 (全国 114 施設) で病院研修の上、合否判定を行っている。

第 9 回資格試験 会場：TKP 市ヶ谷 Conference Center 2018 年 11 月 4 日 (日)

申請者 255 名、受験者 254 名、最終合格者：243 名 (合格率 95.6%)

第 10 回資格試験 会場：難波御堂筋ホール 2019 年 11 月 3 日 (日)

申請者 216 名、受験者 215 名、最終合格者：207 名 (合格率 96.3%)

第 11 回資格試験

2020 年 11 月 7 日 (土)、8 日 (日)、東京都ベルサール神田にて開催予定であったが、COVID-19 の影響で中止となった。

第 11 回資格試験は 2021 年 11 月 6 日 (土)、7 日 (日) に開催予定である。

現在更新対象者 288 名、申請者 195 名である。